

---

**どうも、悪魔です。**

タナトスの鎌

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

どうも、悪魔です。

### 【コード】

N8918U

### 【作者名】

タナトスの鎌

### 【あらすじ】

私は 李白 杜。2011年7月某日に、死んだ。

「お前悪魔な。」「は？」

不幸な偶然、愉快な運命。

悪魔になった杜さんは、今日もせっせと不幸をはこぶ！

## 犠牲者0人目 「どうして悪魔になったのか」

私は 李白 杜。2011年7月某日に、死んだ。

で、今あの世つばいところにおいて、目の前にえらそうな男がいる。

「お前悪魔な。」

は？

「だつてお前、自殺したじゃん。」

たしかに私の死は意図的（屋上からの転落死）だが、

「何でそれだけで悪魔決定？つていうかあんた誰？」

「神だ。」

「おお、あなたが伝説のクリエイターの、」

「ちがう。」

冗談だよ。

「お前は自殺した。しかも運が悪いことにお前死んだ日、一人の悪魔が死んだ。お前はその代わりに、悪魔として生きなくてはならない。」

なにその規則。

「これを渡しておこう。」

突然、目の前に現れたのは、

真っ黒なローブと、細長い手帳。

ローブの金具と手帳の表紙には、ハートと悪魔の羽のマーク。

「その手帳は悪魔帳、不幸にしたものの名が刻まれる。それが一杯になったら、御役御免だ。ちみに、2回世界を滅ぼさないとイケな

いぐらいの枚数あるからな。」

鬼だ。こいつ。

「本人の価値観で刻まれるから。1人幸福にすると、古い方から一人分名前が消えるぞ。」

「さあ、開ける。」

目の前に扉が数枚現れる。

ローブを着て、一枚の扉に手をかけた。

「行ってこい。マルム。」

こうして私は悪魔になった。

被害者1人目 「扉を開けると」

扉を開けると、人が死んでた。

心臓の音、ナシ。

瞳孔、開いてる。

脈拍数、ゼロ。

第一村人、死体。w w w

不幸にしようがない。w w w

ってか、本当にどうしよう。

前途多難すぎる。

「うっうわあああああああああ……!……!……!」

ん？

振り向くと、第二村人発見w w w

何で驚いているのかというと、

予想：？私が黒いローブ着てて、背中にコウモリの羽があるから。

(つまり悪魔だから。)

? 第一村人(いい加減このノリやめよう。)が死んでるから。

? 自分が殺されると思ったから。

さあ、どれ？

「あ、悪魔……!」

？か、

「し、死んでる!!!!」  
ああ、???ね。

「こ、殺される!!!!!!!」  
おお、まさかの??+?!  
スゲーな、こいつ。

「いや、この場合、?? ? だろうか。」  
誰だ、心を読んだ上の的確なツツコミまで入れたのは、

「俺だ。」  
もっかい振り向く、と、そこには1mほどもある大きなカラスがいる。

羽は一本一本がツツやかで、とても美しい。

(村人?は死亡中なう。www)

村人?は気絶中なう。www)

「それより、悪魔帳を見ろ、」  
カラスに言われるままに見ると、薄い字で、『カサル・ケーマー』とある。

「そいつの名前だ。」  
と、村人?を指す。

「もうひと押しで、こいつは不幸になる。」

「どうするの?」  
「まあ見てろ、」  
カラスはバツバツサと村人?に近づく。

「Eine tote Person l?scht Leben;

zu einer Person Angst und ei

ner Verzweiflung。」



**被害者1人目 「扉を開けると」(後書き)**

悪魔だ、こいつら。

文中の海外語文は、ドイツ語です。

「死者よ、生けし者に恐怖と絶望を！」  
みたいな内容です。

**犠牲者2人目 「まずは自己紹介」 (前書き)**

主要キャラの名前を変更しました。  
本当に申し訳ありません。

## 犠牲者2人目 「まずは自己紹介」

「で、結局お前誰なんだよ。」  
私はカラスに言う、

彼（？）は、深紅の瞳をキョロリとまわしてから言った。

「俺はグリード。」

「私は……………」

「知っている。マルム、だろう。ついこの間悪魔になった。」  
私は頷いた。

「俺はお前のサポーターだ。しばらく一緒にやっていくことになっている。」

よろしく。と、グリードは言った。

私も、よろしく。と、言った。

人間相手なら握手でもするんだろうが、相手はカラスだしWWW

9

「この世界は一言で言うとファンタジーだ。」

グリードが言うには、ここは魔法あり、モンスターあり、魔王もありの、ファンタジーな世界らしい。

「ある程度の人数を不幸に出来たら、別な世界に飛ぶことができる。」

それまではチマチマ不幸集めだ。と、言われた。

「とりあえず街に降りよう。」

「ちよっタンマ。」

「ん？」

「しゃべるカラスと一緒にいたら、目立ちすぎるよー！」

「ああ、そうか。」

そう言つと、何かブツブツと呪文を唱えた。

すると、そこには……………。

真っ黒な髪に、私と同じローブを着た、

真紅の瞳の美青年が立っていた。

「これでいいか。」

ぼーっと見ていた私にグリードは言った。

うんうん。と頷く私に、そうか。と、グリードは進み始めた。

しかしハンサムだな！。

と、思いつつ、

私たちは山道を下っていった。

**犠牲者2人目 「まずは自己紹介」 (後書き)**

カラスの名前が判明。(笑)

察しの言い方は、

「フラグ立った!」

とお思いでしょうが、残念ながら恋愛系には行きません。  
なぜなら作者が嫌いだから。(笑)

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8918u/>

---

どうも、悪魔です。

2011年10月9日10時24分発行